

2008年
日本プレイセラピー協会
夏期プログラム



心的外傷(トラウマ)とプレイセラピー

子どもにかかわる仕事をしていると、「プレイセラピー」を行う機会が多いと思います。しかし、その意義や目的、方法、効果について具体的に知り、体系的に学ぶことのできる機会は、他のカウンセリングや心理療法に比べ非常に限られているのが現状です。そして実際に多くの心理臨床家がそのことを不安に思いながら、日々、手探りで子どもたちに接しているのではないのでしょうか。

そうした臨床家の研修機会を少しでも増やしていくため、学派を越えた標準的なプレイセラピーの基礎と実践を学ぶ研修会シリーズを企画していきます。第2回目である今回は、「心的外傷(トラウマ)とプレイセラピー」と題して、アメリカ・そして日本の講師をお招きし、子どものトラウマ治療について、講義や集中的なワークショップを企画します。

虐待や事件、事故、災害など、子どもが巻き込まれる悲しい出来事があとを絶ちません。子どもたちが、それらの傷つきを癒すために、親や教育者、地域社会、精神保健従事者など、大人たちができることは何でしょうか。2001年同時多発テロなどの人的災害、2004年スリランカでの津波災害などの自然災害、さまざまな虐待被害などの子どもたちの支援を積極的に行ってきた講師陣をお招きします。

プログラム内容は講師の先生方と共に構成いたしました。欧米の標準的訓練と同水準の短期集中プログラムとなります。

主催

日本プレイセラピー協会

ホームページ <http://www.ja4pt.org/>

携帯版ホームページ <http://www.ja4pt.org/i/>



後援

米国プレイセラピー協会 (Association for Play Therapy) <http://www.a4pt.org/>

協力

大野木サイコセラピー・カウンセリングクリニック、クリニック川畑、
ファミリーメンタルクリニックまつたに (順不同)

米国プレイセラピー協会からの言葉

第2回のトレーニングプログラムの開催、おめでとうございます！日本のメンタルヘルス専門家の皆さんが、プレイセラピーの知識と技術をさらに磨こうとしていらっしゃることに心から称賛いたします。子どもたちが必要としていることに力を尽くすことは、家族や社会がより良く機能するために非常に重要なことです。子どもの健康な成長を助けるに必要な介入を提供することは、とても誇らしく、名誉なことです。世界各国の協会がそれぞれの国のニーズに応えようと努力するのと時を同じくして、日本プレイセラピー協会がその努力をしていることに、私自身も勇気づけられる思いです。みなさん、本会を存分に楽しませてください！

リンダ・ホーマイヤー、Ph. D. , LPC, RPT-S

米国プレイセラピー協会代表

テキサス州立大学（サンマルコス）教授

米国プレイセラピー協会は、日本プレイセラピー協会が、メンタルヘルスの専門家の方々に継続して訓練の機会を提供し、クライアント、特に子どものクライアントとより良くコミュニケーションを持ち、援助することができるよう、遊びの力を使うことに尽力していることを、非常に嬉しく思っております。ジャーニーン・シェルビー博士といったすぐれた講師を招聘することによって、日本プレイセラピー協会の提供するプログラムが素晴らしいものとなることは間違いありません。アメリカの仲間として、幸運と成功をお祈りしております！

米国プレイセラピー協会 事務局長 ビルバーンズ

当協会および今回の企画への推薦の言葉

日本プレイセラピー協会の理事の方々、素晴らしい訓練プログラムを企画されたこと、誠におめでとうございます！2008年のワークショップ講師である、ジャーニーン・シェルビー博士と大野木嗣子博士は、国際的にも高名な講師たちであり、プレイセラピーの分野で主たる功績を挙げられているの方々です。訓練シリーズが続けて成功を収めることをお祈りしています。

チャールズE. シェイファー博士 RPT-S,

米国プレイセラピー協会共同創設者・名誉理事

日本で、再び夏のワークショップシリーズが行われることを知って、とてもわくわくしています。このワークショップによって、参加される方はプレイセラピーの実際を知ることができ、また皆さんそれぞれの分野でプレイセラピーを使い始めるその入口に、きっと立つことができます。昨年私は講師として、参加者の方々が本会のワークショップを通じて、プレイセラピーを生かそうとご尽力されている他の人々と出会う機会になっているのを見てまいりました。そのことは、学びを深めたり、学びを深める途上で自分を支えるシステムを持つことの一助となります。昨年夏の集中プログラムは、講師から直接学び、演習をし、フィードバックを受けることができるという点について、参加者の皆さんから好評だったようです。そして、前回の参加者である専門家の皆さんは、非常にワークショップに対して熱心に集中しており、学ぶことに対してとてもオープンだったため、その場は、素晴らしい学びの環境となりました。

シェルビー博士のワークショップには私もこれまで何度か参加し、その度にトラウマについてより深く理解できるようになり、トラウマが脳や生理機能に与える影響や、そのような子どもたちに必要とされているプレイセラピーという手段についてもより良く理解することができました。シェルビー博士はトラウマを受けた子どもたちとの幅広い治療的関わりの体験があり、講師として、その体験を活気ある方法で教えることができる方です。彼女の講演であれば、どれも私は喜んで参加したいと感じます！

ジュディス・マコーミック、RPT-S、アイルランドにて従事
日本プレイセラピー協会顧問
2007年日本プレイセラピー協会夏プログラム講師

2007年に私は日本プレイセラピー協会の海外講師として、すべての参加者の方々の熱意ある参加、そして知識と体験に非常に感銘を受けました。

2008年には、二人の素晴らしい講師である、大野木先生とジャニーン・シェルビー先生がいらっしゃいます。二人の先生方はプレイセラピーの分野において格別なスキルをお持ちで、お二人の知識と体験によって、すべての参加者の方々は、ご自分の学びを深めることができることでしょう。

私自身も、日本プレイセラピー協会の顧問となったこと、そして継続的なワークショップに自ら関わり、日本におけるプレイセラピー分野の発展のお力になれることを非常に誇りに感じております。2008年のワークショップは必ずや参加される皆さんのスキルをさらに深めることでしょう。

アン・カタナック博士
ローハンプトン大学、プレイセラピーコース、大学院創設者
UKハイランド他、海外における児童ケアコンサルタントセラピスト
日本プレイセラピー協会顧問
2007年日本プレイセラピー協会夏プログラム講師

I 講演・シンポジウム

トラウマと子ども

トラウマとなるような出来事が起きたとき、子どもにとって、それらはどのような影響を及ぼす体験となるのでしょうか。そして私たち大人は、そのような時、子どもに対して何をすることができるのでしょうか。

講演では、子どもの日常でのトラウマ・ケアを始めとし、各地の被災地や戦災地でのトラウマ・ケアを実践、研究され、講演やワークショップを国際的に数多く行っている Dr. Janine Shelby（シェルビー博士）をお迎えし、トラウマが与える精神面での影響、必要なケアについてお話いただきます。

シンポジウムでは、子どもたちのトラウマ・ケアを各地で実践してこられた先生方をお迎えし、トラウマ・ケアの実際の対応について、ディスカッションをしていただき、その対話を通して、トラウマ・ケアの可能性を探っていきたいと思います。実際にトラウマ・ケアに携わっている方も、そうでない方も、トラウマと子どもについての基本的な知識を、実践的なお話を通して学ぶ機会となることが期待できます。

日時：2008年8月9日(土) 午前10時～午後5時（開場：午前9時30分）

参加費：①3月31日までのお申込み 8000円 ②5月31日までのお申込み 9000円

③7月10日までのお申込み 12000円

定員：200名

対象：心理・教育・保育・医療・看護・福祉の専門家および大学院・大学・短大・専門学校生で、プレイセラピーや子どもの治療に関心のある方

会場：青山学院大学（青山キャンパス）総研ビル第13会議室

JR山手線、東急線、京王井の頭線「渋谷駅」宮益坂方面の出口より徒歩約10分、
または地下鉄「表参道駅」B1出口より徒歩約5分

* 参加ご希望の方で、先生方に聞いてみたいと思う質問などがある方は、予め申し込み時に事務局あてにぜひお送りください。当日のお話の中で答えいただけるようにしたいと思います。



【第1部】 午前10時～12時半：講演

『子どもの心的外傷（トラウマ）』

講師：ジャーニン・シェルビー先生

【第2部】 午後2時～5時：シンポジウム

『子どもの心的外傷（トラウマ）への対応』

講師：村瀬嘉代子先生、

ジャーニン・シェルビー先生、

大野木嗣子先生

Ⅱ プレイセラピー応用講座

プレイセラピー事例 公開スーパービジョン

2人の講師の先生方に同席いただき、同じ事例へのコメントをそれぞれいただきます。異なる立場から同じ事例を見たとき、どのように理解をし、いかにプレイセラピーを組み立てるのかを比較することのできる、大変興味深いスーパービジョンになると思います。ご参加いただく専門家の方から、子どものトラウマ・ケアとしてプレイセラピーを行った事例を広く募集いたします。ご希望の方は、以下の詳細をごらんの上、お申し込みください。

- 日時 : 2008年8月17日(日) 午前10時～午後3時
開場 : 午前9時30分
参加費 : ①3月31日までのお申込み 9,000円 ②5月31日までのお申込み 10,000円
③7月10日までのお申込み 13,000円
定員 : 100名
対象 : プレイセラピー実務経験者。または心理・教育・保育・医療・看護・福祉の大学院以上(院生可)。いずれも守秘を守れる方。
会場 : 青山学院大学(青山キャンパス) 総研ビル第13会議室
JR山手線、東急線、京王井の頭線「渋谷駅」宮益坂方面の出口より徒歩約10分、
または地下鉄「表参道駅」B1出口より徒歩約5分
内容 : 参加者の提供する事例のスーパービジョン(2事例)
講師 : ジヤニン・シェルビー先生、大野木嗣子先生

* 事例提供者を募集します

ご参加される専門家の方で、子どものトラウマ・ケア(虐待、自然災害、事故、犯罪などの被害や目撃など)としてのプレイセラピー事例を提供して下さる方を募集します。ご希望の方は、事例の概要をA4用紙1枚以内で2008年6月2日までに事務局あてに、メールまたはファックスでお送りください。スーパーバイザーと共に審議し、発表事例を決定の上、6月13日までにこちらよりご連絡いたします。事例の概要には、以下のことを含みます(事例の性別と年齢、頻度や時間などの構造、トラウマや主訴の概要、プレイセラピーでの目標や経過、検討したいポイント、発表者=治療者の性別と年齢)。

* APT 研修証明書発行対象プログラムです

Ⅲ プレイセラピー集中プログラム

プレイセラピー集中講座（5日間）

プレイセラピー集中講座では、プレイセラピーの様々な技法とそれらを統合させた展開の仕方を学びます。

講義と演習をおこない、参加者 1 人ひとりの課題を明確にすることができるのと同時に、学習したことの定着をはかることをねらいとします。欧米では、認定プレイセラピストになるためには修士卒業レベルであることに加え、一定の訓練課程が必要とされています。講師の先生方はその訓練教育をする有資格者であるため、ほんの一部ではありますが、その訓練課程と同等のものを学ぶ機会ともなります。

日時： 2008年8月10日(日)・8月11日(月)・8月12日(火)・8月15日(金)・8月16日(土)
午前10時～午後5時

開場： 午前9時30分

参加費： ①3月31日までのお申込み 95000円 ②5月31日までのお申込み 100000円
③7月10日までのお申込み 105000円

定員： 26名

対象： プレイセラピー実務経験者(経験5年以上)。または心理学・児童心理学・児童発達心理学などの大学院以上(院生可)。いずれも5日間参加可能な方。

会場： 南青山カンファレンスルーム(地下鉄表参道駅B1出口より徒歩約10分)

内容： 「EBPT(エビデンスベースドプレイセラピー)」
「さまざまなトラウマと治療についての基礎理論」
「自然災害後のトラウマ治療としてのプレイセラピー」
「性的虐待の治療としてのプレイセラピー」
などに関する講義・ロールプレイ

講師： ジャニーン・シェルビー先生、大野木嗣子先生

* APT 研修証明書発行対象プログラムです

△▼ 集中講座 懇親会のお知らせ ▼△

集中講座にご参加の方々と、講師の先生方との懇親会を開催します。
ふるってご参加ください。

日時： 8月10日(日曜日) 午後6時～8時

会場： [THE CAMEL 西麻布](#) (表参道駅より徒歩20分、外苑前駅より徒歩10分)

会費： 4000円 (プログラム申し込み時に参加希望の旨をお知らせの上、
参加費をお振り込みください)

講師紹介

Janine Shelby, Ph.D. ジャニン・シェルビー先生

マイアミ大学においてPh. D. を取得。現在、ハーバーUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)メディカルセンター児童青年精神科部門において児童心理学トレーニングディレクター、カリフォルニア州サンタモニカにて個人開業。これまでに、米国プレイセラピー協会カリフォルニア支部代表、米国プレイセラピー協会理事長などを務めてきた。

トラウマとなる出来事を体験した人々へのPTSD治療介入に力を注いでおり、国内・海外において、子どものトラウマとなるストレスやその治療に関する講演やワークショップを数多く行うと同時に、人道的援助組織のコンサルタントも多く務めている。特に Operation USA のコンサルタントとして、ペルーや台湾の地震災害、ニカラグアのハリケーン、スリランカの津波災害の心理支援活動において、中心的役割を果たした。その活動や研究は高く評価され、数々の賞やフェローシップを受けている。トラウマに関する執筆には以下のものがある。

“The playing cure” H. Kaduson, D. Cangelosi, and C. Schaefer 編 Jason Aronson,1997

“Short-term play therapy interventions with children” H. Kaduson, and C. Schaefer 編 Guilford, 2000 (邦訳:『短期遊戯療法の実際』創元社)

“Empirically based play therapy” L. Reddy and C. Schaefer 編 APA Press,2005

大野木 嗣子先生, Psy.D.

カリフォルニア・スクール・オブ・プロフェッショナル・サイコロジー(サンディエゴ)臨床心理学博士号取得。現在東京都港区で開業、国際基督教大学にてプレイセラピーの客員講師。日本プレイセラピー協会共同創設者・理事、International Mental Health Professionals Japan(IMHPJ)理事、Nana's Children Mental Health Foundation 顧問などを務める。

子ども、家族、プレイセラピー、子育て支援や多文化的問題を専門とし、ワークショップやセミナーも多数開催。

平成 16 年の新潟地震の災害児に携わる心理職員にアドバイスをしており、平成 16 年のスリランカの津波の災害時に Operation USA と米国プレイセラピー協会の支援の下で直接心理的な援助をおこなう。幼少時期と大人になってからも日本とアメリカ両方で過ごしたため、完全なるバイリンガル、バイカルチュラルでもある。編著などには以下がある。

『落ち着きのない子供の心理的な要因の理解と対応』 児童心理, no. 706 (金子書房、1998.12)

“International Handbook of Play Therapy” Charles Schaefer, Ph.D., Akiko Ohnogi, Psy.D., and Judy McCormick, M.A., Eds., Rowan&Littlefield ,2005

ベネッセ出版進研ゼミ講座シリーズ保護者向け雑誌「進路進学通信」コラム連載

“Play Therapy for the Very Young” Charles Schaefer, Ph.D., Phronsie Kelly-Zion,MA., Judy McCormick, M.A., and Akiko Ohnogi, Psy.D., Eds. Rowan&Littlefield (印刷中)

“Play in the Japanese Culture” Chapter in “Play as therapy: Assessment and therapeutic interventions”, Karen Stagnitti and Rodney Cooper, Eds. Jessica Kingsley publishers (印刷中)

“Play Therapy and Safe Space” Chapter in “Psychotherapy and Safe Space”, Hidefumi Kotani, Ed. (印刷中)

“Play based psychological interventions with traumatized children: Work with tsunami orphaned Sri Lankan children.” International Journal of Counseling and Psychotherapy, Institute for Advanced Studies of Clinical Psychology, Tokyo, Japan.(印刷中)

《特別講師》

村瀬 嘉代子先生, Ph.D.

奈良女子大学文学部心理学科卒、家庭裁判所調査官(補)、カリフォルニア大学大学院バークレイ校留学、最高裁家庭局家庭裁判所調査官研修所研究員などを経て、大正大学大学院教授、日本臨床心理士会会長。

子どもと家族への臨床心理学的援助、統合的心理療法、重複聴覚障害者や養護児童への臨床心理的援助を中心とする実践・研究に携わってきた。また20年以上前に統合的なプレイセラピーのアプローチを提唱している。著書は以下のものなど多数。

『心理療法の基本－日常臨床のために－』共著(金剛出版、2000)

『柔らかなころ、静かな想い－心理臨床を支えるもの－』(創元社、2000)

『児童虐待への心理学的アプローチ』(エデュケーション、2000)

『子どもと家族への統合的心理療法』(金剛出版、2001)

『子どもの福祉とこころ』監修(新曜社、2002)

『「生の意味」が問われるときに』(『大正大学カウンセリング研究所紀要』26号、2003)

『統合的心理療法の考え方』(金剛出版、2003)

『心理療法とは何か』(金剛出版、2004)

『カール・ロジャーズ』共編著(日本評論社、2004)

『すべてをこころの糧に』共編著(金剛出版、2004)

『聴覚障害者への統合的アプローチ』(日本評論社、2005)

『心理臨床という営み』(金剛出版、2006)

◆ 研修証明書発行 ◆

※ 米国プレイセラピー協会の研修証明書発行について

— APT approved provider **—*** —

プレイセラピー応用講座、集中プログラムの参加者で、ご希望の方には、米国プレイセラピー協会（Association for Play Therapy）の研修証明書を発行することができます。認定プレイセラピストの資格を取得する際に必要研修時間として認められます。発行手数料は3000円です。申し込み時に要・不要を記入し、要の方はお振り込み金額合計に3000円（参加プログラムがいくつであっても3000円）をご加算ください。

◆ お申し込み方法（全プログラム共通） ◆

① WEBよりお申し込みください。当会ホームページ（<http://www.ja4pt.org/>）の「研修会案内」→「WEB申し込み」（PC用）より必要事項をご記入・ご送信ください。ご入力メールアドレスにお間違いがありますとこちらからの返信ができなくなりますので、ご注意ください。携帯からの場合、「お申し込み（携帯）」リンクよりお申し込みください。

* WEBフォームが何らかの事情によりお使いになれない場合、FAXまたはメールによるお申し込みが可能ですのでご利用ください。その場合、下記の必要事項をもれなくご記入の上、当会までお送りください。

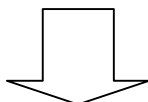
FAX：042-759-6199（青山学院大学学生相談センター内 日本プレイセラピー協会事務局宛）

メール：play_therapy@nifty.com（日本プレイセラピー協会事務局）

FAXまたはメールでお申し込み際の必要事項（WEB申込の方は次の項目へお進みください）

【氏名、ふりがな、性別、連絡先住所、電話、FAX、メールアドレス（長文メールを受信できない携帯アドレスは不可）、所属、職種、心理臨床経験年数、プレイセラピー臨床経験年数、参加希望プログラム（複数可）、お申し込みプログラムの各料金（申込日によって料金が異なります）、（発行希望の場合）研修証明書発行希望の旨、（参加希望の場合）懇親会参加希望の旨、合計金額、（お振込み時の口座名義がお申込者名と異なる場合）口座名義人氏名、（臨床心理士資格をお持ちの場合）臨床心理士番号、当研修会をお知りになったきっかけについて、（今後当会の案内をとくに希望されない場合）「不要」の旨】

*メールアドレスをお持ちでない場合には、FAX番号を必ずご記入ください。



② 事務局より、メールにて（FAX 番号のみ記載の方へは FAX にて）「お申し込み受付」（仮受付）の案内をお送りいたします。お申し込み内容、金額、お振り込み口座をお確かめの上、1週間以内に参加費などの合計金額をお振り込みください。期日までにご入金を確認できない場合、自動的にお申し込みキャンセルとなりますのでご注意ください。ご入金確認後、事務局より「正式受付」の案内（会場案内図も掲載）と領収書を、連絡先住所へ郵送させていただきます。 * 発送までにお時間をいただいております、ご了承ください。

* お申し込み・お振り込みの両方の確認をもって、正式受付となります。ただし記入内容に不明な点がある際には受付前に確認させていただく場合があります。正式受付の先着にて定員になり次第、締め切り前でも締め切らせていただく場合がありますのでご了承ください。

* 万一定員を超えた際には着金確認後に、返金させていただく場合があります。それ以外のお振り込み後のキャンセル・返金はいたしかねます。ご了承ください。

* 締め切り：3月31日、5月31日、7月10日（それぞれ必着）の締め切りによって参加費が異なります。ご注意ください。

* しばらくお待ちいただいてもこちらからの各受付案内が届いていない場合には、通信障害や郵送事故の可能性もありますので、その場合はお手数ですが事務局までお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

* お預かりした個人情報は、プログラムおよび当協会の運営以外の目的で使用することはありません。

◆ お問い合わせ ◆

・当会ホームページ（<http://www.ja4pt.org/>）お問い合わせフォームより事務局までご連絡ください。
メール、FAXにてお問い合わせいただく際は、下記までお願いいたします。

事務局メールアドレス：play_therapy@nifty.com（日本プレイセラピー協会事務局宛）

事務局FAX：042-759-6199

（青山学院大学学生相談センター内日本プレイセラピー協会事務局宛）

当協会は NPO 法人化をめざし準備中です。当協会の活動については、個人・団体・企業の皆様のご寄付・ご支援などにより活動が維持されています。ご支援くださった方には、今後当協会企画のご案内をさせていただきます。詳しくは、当会ホームページ（<http://www.ja4pt.org/>）お問い合わせフォームより事務局までご連絡ください。



日本プレイセラピー協会

～ Japan Association for Play Therapy ～
について



* 日本プレイセラピー協会とは？

子どもたちの遊びの世界のもっている力がより尊重され、子どもたちに役立つプレイセラピーがますます社会に認知され生かされることを願い、2002年に設立された非営利団体です。遊びの力について、有効で適切なプレイセラピーのアプローチについて、子育てに役立つ様々なことなどについて、研究や広報、研修会活動を主な活動としています。

* どのような人を対象にしていますか？

乳幼児・児童・青年の心理的支援を目的に心理・教育・保育・医療・看護・福祉などに携わる臨床心理士等心理カウンセラー、学校や幼稚園の教職員、保育士、医師、看護師、福祉従事者などの専門家、および乳幼児・児童・青年を育てる保護者、その他プレイセラピーや児童心理療法に興味・関心のあるすべての人を対象にしています。

* どのような活動を行っていますか？

プレイセラピーという児童心理療法や、児童心理学、発達心理学、臨床心理学を研究し、子どもたちが生き生きと生活・成長できるための具体的で適切な方法の開発をめざしています。そしてその蓄積を社会に伝え、社会全体で子どもたちを暖かく適切に見守り育てることができるよう、広報活動や研修会開催等の活動を行っています。2007年より、海外・国内の優秀な講師を招聘し、質の高い研修機会をめざした研修会企画を数々提供しています。



子どもにとっての遊び（プレイ）

- 時代を越えて、また国や文化を越えて、子どもたちはみな自然に**遊び**ます。**遊び**は、子どもたちが気持ちや考えを表現するもっとも自然なものです。大人たちが言葉を使うのと同じように子どもは**遊び**を言語として用います。子どもたちは**遊び**に没頭し、**遊び**にたくさんのエネルギーや感情を注ぎます。
- 遊び**は子どもにとって、感情の発散はもちろん、コミュニケーションの手段でもありますし、自分のおかれた環境や不安の克服、課題を理解するための手段でもあります。また創造性や問題解決能力を育てるものでもあります。
- 遊び**の持つ力をぜひ実感してください。そして子どもの**遊び**をぜひ尊重しましょう。

プレイセラピーとは？

- プレイセラピー（遊戯療法）**とは、子どもとセラピスト（治療者）の適切で特別な対人関係の中で、受容や承認、制限のある安心・安全な環境と**遊び**道具を通して、子どもが自分の気持ちや考えや行動を表現し探索するのを、プレイセラピストという大人が促進し手伝うものです。
- プレイセラピー**には、来談者中心、精神分析的、認知-行動的、ナラティブなど、さまざまなアプローチがありますが、子どもの発達段階やニーズ（必要）にあわせて、柔軟で最適なアプローチをする力がセラピストには求められています。

◆ 日本プレイセラピー協会スタッフ ◆

代表：湯野貴子（クリニック川畑、ファミリーメンタルクリニックまつたに、臨床心理士）
副代表（兼事務局長）：葛生聡（青山学院大学、臨床心理士）
理事：大野木嗣子（ドクター大野木サイコセラピー・カウンセリングクリニック、臨床心理学博士）
理事：清田真由美（東村山市健康課、臨床心理士）
理事：藤本弥生（ファミリーメンタルクリニックまつたに、臨床心理士）
監事：井上直子（桜美林大学准教授、臨床心理士）

◆ 日本プレイセラピー協会 顧問 ◆

顧問：村瀬嘉代子（大正大学大学院教授、日本臨床心理士会会長）
顧問：Ann Cattanach, Ph.D【アン・カタナック】（スコットランドにて開業、ヨーク大学客員講師）
顧問：Judith J. McCormick, M.Ed【ジュディス J. マコーミック】（アイルランドにて従事）